

2024年9月20日(金)

報道関係者各位

オリザ油化株式会社

【学会発表報告】 生薬学会とセラミド研究会で演題発表を行いました。

この度、オリザ油化株式会社(本社:愛知県一宮市、代表取締役:村井弘道、以下「オリザ油化」)は2024年9月15~16日に開催された**日本生薬学会第70回年会**および9月19~20日に開催された**第17回セラミド研究会学術集会**にて、**当社の機能性素材に関する独自の研究成果を演題発表致しました。**

日本生薬学会年会は、生薬に関する研究を軸としながら天然資源の機能性について、食品・化粧品分野も交えた研究成果の発表が行われる大会です。今回の第70回年会では、当社の血糖値コントロール素材である「ベグキャビア®(マウンテンキャビアエキス)」について2演題のポスター発表を行いました。

1つ目の演題では、「ベグキャビア®」の血糖値上昇抑制作用について、外部CRO機関によって明らかになった高めの血糖値の健常人に対する単回摂取の有効性や、細胞およびマウスを用いた基礎研究によって明らかになった**既存の血糖値コントロール素材とは異なる作用メカニズム^{※1}**について発表致しました。

2つ目の演題では、「ベグキャビア®」に含まれる成分研究の結果として**新規化合物である7種類のアシル化フラボノイド配糖体^{※2}を単離・構造決定し、それらのDPP-IV阻害活性^{※3}を見出したこと**を発表致しました。

これらの発表を通じて、当社の「ベグキャビア®」が**新たな作用メカニズムを持つ血糖値コントロール素材として、機能性表示食品に対応するエビデンスを取得した**だけでなく、**新規な生理活性成分の発見による今後の研究発展に期待**できることを発信致しました。

セラミド研究会は、セラミドやセラミド関連脂質に関する研究の最新情報が、基礎から応用まで、そして食品・化粧品・医薬品を問わず一堂に会する大会です。今回の第17回学術集会では、当社の米由来グルコシルセラミド製品である「オリザセラミド®」の免疫賦活作用について、免疫の要である樹状細胞を用いた実験で「オリザセラミド®」に含まれるグルコシルセラミドが樹状細胞を活性化することを見出しただけでなく、その活性化メカニズムも明らかにしたことを発表しました。

この発表を通じて、当社の「オリザセラミド®」が**樹状細胞を活性化させることによって免疫賦活作用を発揮する**ことを発信致しました。

オリザ油化では、今回の学会で発表した「ベグキャビア®」、「オリザセラミド®」のみならず、当社が開発した機能性エキス素材全般についてさらなる機能性エビデンスの構築を通じた世界の人々の美と健康への貢献に邁進していく所存です。

■日本生薬学会第70回年会 発表演題

演題タイトル: マウンテンキャビア(ホウキギ果实)抽出物の OGTT における血糖値上昇抑制作用

発表者: 下田博司, 鈴木直子, 山本和雄, 飯尾晋一朗, 柿沼俊光, 野口隼太, 馬場亜沙美, 山田和佳奈,
平野麻里奈, 米田朱里, 永田雅文, 高良毅

※下線部はオリザ油化社員

演題タイトル: マウンテンキャビア由来新規アシル化フラボノイド配糖体の化学構造および DPP-IV 阻害活性

発表者: 米田朱里, 竹田翔伍, 下田博司, 萬瀬貴昭, 森川敏生

※下線部はオリザ油化社員

■第17回セラミド研究会学術集会 発表演題

演題タイトル: 米由来グルコシルセラミドの自然免疫応答における構造活性相関とその作用機序

発表者: 宮坂賢知, 竹田翔伍, 萬瀬貴昭, 森川敏生, 下田博司

※下線部はオリザ油化社員

■補足・解説

※1 ベグキャビア®の作用機序: ①胃内容物の排出抑制による血糖値の急上昇の抑制

②小腸からのグルコースの取り込み抑制

※2 アシル化フラボノイド配糖体: フラボノイドに糖が結合し、さらに糖部分にアシル基が結合した構造を持つ成分。

今回の研究ではフラボノイドがケルセチンでアシル基はフェルラ酸が結合したものが単離された。

※3 DPP-IV 阻害活性: DPP-IV 酵素はインスリンの分泌を促すインクレチンを分解してしまうため、DPP-IV を阻害することでインスリンが正常に分泌され血糖値が減少する。